

7月19日（日）主日礼拝レジュメ

「せかいのすべてをつくられたかみさま」 創世記1章1節

1節「初めに、神が天と地を創造された」

神様がおられる。

その神様が私たちの周りにあるすべてものを造られた。

神様は何もないところからすべてのものを造られた。

存在している物には必ず造った人がいる。

2節「地は茫漠として何もなく」

茫漠とは・・・とても人が住めるような場所ではなかったとの意味。

神は、どのように世界をお造りになったのか。

3節「 」と言われて、昼と夜ができました。

6節「 」

9節「 」

乾いたところが地、水の集まった所は海。

11節「 」

14節「 」

大きいほうの光る物は太陽、小さいほうの光る物は月

20節「」

24節「」

27節 神ご自身のかたちとして、人を男と女とに造られた。

30節 人に種のできるすべての草と種の入った実のあるすべての木＝果物
動物には緑の草。

10, 12, 18, 21, 25節「」

31節「」

神様は、私たちや動物にとってすばらしい世界を造られた。

神様が造ったものには知恵と力が現れている。

私たちの周りにあるもの、宇宙、空、山、海などを見ると神様が分かる。

一人ひとは、神様が造られた大切な存在で神様に愛されている。そして
神様は一人ひとりに目的をもって造られた。